

清光学院 AP SEIKO

保護者・受講生の皆さまへ

# いま、大学入試で 何が起きているのか

入試の「ルール」が変わりました。  
でも、教えてくれる人がいません。  
だから、AP SEIKOがあります。

「誰がそれを教えられるのか。」  
答えは、大学の先生です。

清光学院 / AP SEIKO © 清光教育総合研究所

# 入試環境の構造変化——もはや引き返せない現実

## 1-1 推薦・総合型が「例外」から「主流」へ

### 53.6%

2025年度  
推薦・総合型選抜による  
大学入学者の割合  
(文部科学省調査)

### 約60%

私立大学では  
さらに高く、  
約6割が推薦・総合型で入学

### 2021年

推薦・総合型の入学者が  
一般入試を  
初めて上回った年

### △ これはトレンドではなく、「構造の変化」です

一時的なブームや流行ではありません。2人に1人以上が推薦・総合型で大学に入る時代が、すでに始まっています。この流れが逆転することはありません。

推薦・総合型選抜が増えた背景には、大学側の意図があります。「点数だけで測れない力を持つ学生を獲得したい」という考え方が主流になったのです。東京大学・京都大学・東京科学大学（旧東工大）といった最難関国立大学でさえ、推薦枠を拡大し続けています。

## 1-2 一般入試でも「記述・論述力」の比重が上昇

「うちは一般入試一本で行く」というご家庭にも、この変化は無関係ではありません。

### 大学・学部 2025年の入試の実態

東京大学 理系	「論証・見通し・条件整理が鍵」——数学は計算力だけでなく、なぜそうなるかを説明する力が問われる
京都大学 生物	「論述問題あり、実験考察問題が多い」——暗記だけでは太刀打ちできない
医学部（全国）	記述・証明・論述の比重が年々増加。「解けるだけ」では合格点に届かなくなっている

出典：各大学別入試分析（2025年）

### 🔍 入試改革が向かう方向は一つ

「知っている」から「考えて説明できる」へ。

これが一般入試でも推薦・総合型でも、共通して求められる力です。

## 高校の先生も塾の先生も——「教えられない」という現実

入試が変わっても、教える側の体制はそのままです。高校の先生も、塾・予備校の先生も、この変化に追いつけていないのが現実です。これは先生方のせいではありません。**構造的な問題**です。

### 高校の先生の「本音」

「去年まで有効だったアドバイスが、今年は通用しない。毎年ゼロから情報を集め直している感覚です」

— 高校 進路指導教員

「正直、自分が指導していることが正しいのかわからない。大学の求めているものと一致しているのか……確信が持てないまま指導しています」

— 高校 進路指導教員

「うちの学校では、生徒たちに『地域の課題を調べてポスターにまとめる』程度のことしかさせられていません。これで都市部の進学校と同じ土俵で戦えるのか……」

— 地方公立高校 教員（探究学習について）

### 塾・予備校の先生の「本音」

「一般入試なら、過去問分析と模試データで精度の高い指導ができます。でも総合型選抜は……正直、毎年が実験です。去年うまくいった方法が今年も通用する保証はない」

— 大手予備校 講師

#### □ 数字が証明する現場の限界

- 高校教員の **62%** が「入学者選抜の多様化」を進路指導の最大の課題に挙げている
- 高校教員の **49%** が「教員自身の知識・理解が不足している」と認めている
- 探究学習の指導に「負担が大きい」と答えた教員は **82%**
- 教員の月平均残業時間は **80時間超**（過労死ライン）——その上に、専門外の入試指導が加わっている

出典：全国高等学校対象の教育改革実態調査（2024年）

## 「誰がそれを教えられるのか。」

学校の先生でも、塾の先生でも、難しいのです。

では、誰なら教えられるのか。

**それは、大学の先生です。**

## なぜ「大学の先生」でなければならないのか

総合型選抜・推薦入試の小論文・面接で問われるテーマは、医療倫理・生命科学・統計・工学・哲学など、深い専門知識が必要なものばかりです。そして一般入試の記述・論述でも、「なぜそうなるか」を大学レベルの視点で説明できるかどうか差を生んでいます。

### ❖ 大学の先生が教える理由

- 問題を作っている本人たちだから——入試問題がどういう意図で作られているかを知っている
- その分野の第一線の経験者だから——医療現場・研究・実験の実際を知っている
- 高校の教科書の「その先」を知っているから——受験生が躓く「壁」の正体を知っている

### AP SEIKOの核心体験——「高校の解き方 vs 大学の知識」

「この入試問題、高校で習った方法で解くと……こんなに時間がかかる。  
でも、大学ではこう考える。すると、同じ問題がこんなにシンプルに解ける。」

この「差」を体験した瞬間に、生徒たちは気づきます。「**大学で学ぶことには意味がある**」「**先を見て勉強することで、今の試験も変わる**」——そういう感覚を、一つひとつの授業で積み重ねます。これは高校の授業でも塾の授業でも体験できません。**大学の知識を持つ指導者にしか、できないことです。**

### 第1期 全137講座——「いま最も必要な知識」が揃っています

科目・シリーズ	なぜ今、必要なのか
数学 (21講座)	医学部・理系全大学で「解けるだけでなく説明できる」記述論証が年々増加。大学の視点があると問題が変わって見える
物理・化学・生物 (計40講座)	入試の記述問題は「なぜそうなるか」が問われる。大学の知識で同じ問題が鮮やかに解けるようになる
統計リテラシー (9講座)	医学部の小論文・面接で、感度・特異度・研究デザインを「読める」ことが当たり前求められる時代になった
論述ブースト (18講座)	私立医学部で小論文がない大学はたった2校のみ。薬・農・工の推薦でも論述が急増している
医療現場・医学史・哲学・社会学 (21講座)	医学部面接・小論文の最頻出テーマ。この知識があるかどうかで、面接の「深さ」が全く変わる
メディカル英語・アカデミック英語 (18講座)	国公立医学部の英語は1000語超の長文+記述が主流。専門的な英語力が合否を分ける

## 保護者の皆さまへ、そして受講生の皆さんへ

### ☹️ いまの状況（多くのご家庭の現実）

- 学校の先生は「去年の情報」で指導している
- 塾では点数は上がっても、小論文・面接・論述の深い指導は難しい
- 医療倫理・哲学・統計など、専門的な知識を持つ講師がない
- 「何を準備したらいいかわからない」まま時間が経っていく

### 😊 AP SEIKOを受講したあと

- 「なぜそうなるか」を自分の言葉で説明できるようになる
- 医療倫理・哲学・統計の問いに、自信を持って答えられるようになる
- 小論文・面接で他の受験生と「深さ」が違う答えを出せるようになる
- 一般入試の記述問題でも、大学の視点が加わって差がつく

### □ 受講生の皆さんへ——知識は「武器」です

面接官の先生は、大学の教授です。あなたが「CRISPR-Cas9とは何か」「ロールズの正義論が医療倫理にどう関係するか」を正確に語れるとき、面接室の空気が変わります。

「そこまで知っているんだ」——その瞬間が、合格への分岐点です。AP SEIKOはその「知識と語り方」を、大学の先生が直接伝えます。

### AP SEIKOが提供するもの

- 大学の知識で「なぜそうなるか」を体験する授業（全137講座）
- 医療・哲学・統計・薬理学など、推薦・総合型の頻出テーマを完全網羅
- 一般入試の記述・論述力を底上げするスプリント講座（数学・物理・化学・生物）
- 「高校の解き方 vs 大学の知識」体験を通じた、本物の思考力育成

対象：医学部・薬学部・理学部・工学部・農学部・看護学部 を目指すすべての受験生

**変わったのは、入試だけではありません。  
「何を学ぶか」も、変わっています。**

AP SEIKOは、その変化の一步先を、大学の先生と一緒に歩みます。

清光学院 AP SEIKO / お問い合わせは清光学院までお気軽にどうぞ

© 清光教育総合研究所